



2011年4月4日

## NPO法人キャンサーリボンズでは、東日本大震災被災地の、 がん患者さんの状況に関する情報を集めています。被災地の患者さんへの 山田邦子さん(キャンサーリボンズ委員)からのメッセージも公開しています。

NPO法人キャンサーリボンズ: がん患者さんの治療と生活をつなぐこと、がんケアのネットワークを作ることを目的に2008年に設立。全国12カ所に、がんのケア情報を提供し、患者さんやご家族が集うことができる「リボンズハウス」を展開している。

東日本大震災被災地の、透析を受けている患者さんに対しては、いち早く対策がとられメディアでも大きく報じられました。しかし、震災発生後1ヵ月が経った今もがん患者さんの状況はなかなか伝わってきません。厚生労働省では、「薬局等は、東日本大震災による被災により医師等の受診や医師等からの処方箋の交付が困難な患者さんに対しては、特別に処方箋がなくても処方箋医薬品を販売することができる」(厚生労働省HPより)など、がん患者さんも含め薬が必要な人への融通措置をとっています。

しかし、実際には、どのぐらいの患者さんが自分に必要な抗がん剤や痛み止めを入手できているのでしょうか？

また、多くのがん患者さんは、入院ではなく、外来に定期的に通院して化学療法を受けています。その方々はちゃんと病院に通うことができているのでしょうか？周囲に遠慮して「病院に行きたい」と言えない方もいらっしゃるのではないのでしょうか？

NPO法人キャンサーリボンズでは、少しでもがん患者さんの療養環境が好転するきっかけになればと、被災地のがん患者さんの不安や不便を収集し情報発信をしていきます。

メディアの皆さまにおかれましては、被災地の患者さんやご家族、知人の方からの情報収集が進むよう、山田邦子さんのメッセージとともに私どもの活動の周知にお力添えくださいますようお願いいたします。

### 山田邦子さんからのメッセージ (<http://www.ribbonz.jp/>で公開中)



「がん支えあいの日」コンサートより

がんの早期発見についてのイベントやスター混声合唱団のコンサートで、今回の震災で被害を受けた地域におじゃましたことがあります。そのときの地域のがん患者さんとの交流は本当に楽しく、私の方が元気をもらいました。

震災発生後、あの方々はどうしていらっしゃるのだろうと、ずっと気になっています。抗がん剤が手に入らないのなら、もし、私が飲んでる薬を分けてあげられるものだったら、持っていきたい。

私が飲んでる乳がんの薬は、毎日きちんと飲まなくてはなりません。仕事場に薬を持っていくのを忘れて、そのことが不安で不安で、人に頼んで薬を家に取りに行ってもらったこともあります。

がん友の皆さん、どうしていますか？薬は飲めていますか？化学療法を受けるための通院はできていますか？不安なことはないですか？不便はないですか？

患者さん、ご家族の方、お友達の方、どんな些細なことでもいいので、キャンサーリボンズに教えてください。私たちは皆さんの言葉を集めて、情報を発信したいと思っています。少しでも状況がよくなるように、少しでもお役に立てることを願っています。

#### 【情報の宛先(この件に関するお問い合わせ先も)】

NPO法人キャンサーリボンズ 担当) 廣瀬、高島、田村  
メール) [ribbonz@ellesnet.co.jp](mailto:ribbonz@ellesnet.co.jp) FAX) 03-5565-4914  
電話) 03-3546-6101